

INFORMATION

IDFワールド・デーリィ・サミット 2016の概要

国際酪農連盟（IDF）ワールド・デーリィ・サミット2016が、10月16日から21日の6日間にわたり、「勇気をもって酪農を」というメインテーマを掲げて、オランダのロッテルダムで開催された。世界64カ国から1,050名の酪農乳業関係者等が参加した同サミットにおいては、国連食糧農業機関（FAO）とIDFによる「ロッテルダム酪農宣言」が採択された。

1. 日本からも酪農乳業関係者39名が参加

オランダで30年ぶりに開催されたワールド・デーリィ・サミット2016には、世界64カ国から1,050名の酪農乳業関係者等が参加した。もっとも多くが参加したのは開催国オランダで299名、続いてドイツが91名、米国が67名、フランスが61名、カナダが40名で、日本からは酪農乳業関係者等39名が参加した。

開会式当日に開催されたIDFリーダーズフォーラムでは、「90億人に食料を供給するために酪農乳業はいかに持続的に貢献するか」をテーマに、世界の酪農乳業界のオピニオンリーダー5名（米国・エランコ社国際食品動物担当、オランダ・フリーズランドカンピーナ社CEO、インド・酪農開発ボード会長、オランダ・ワーゲニンゲン大学動物科学研究所長、FAO分析・政策セクター長）がパネリストとなり、それぞれの立場から考えを述べ、その後、パネルディスカッションが行われた。

2. 全体講演会及び特別講演会の概要

今回のサミットの特徴は第一に、講演会が10月17日から19日の3日間に集中して組まれたこと、第二に2日間で4回の全体講演会が午前部と午後部の最初の1時間に実施されたこと、第三に聴講者の意見が電子機器（スマホ等）

サミットの主な参加国と参加者数

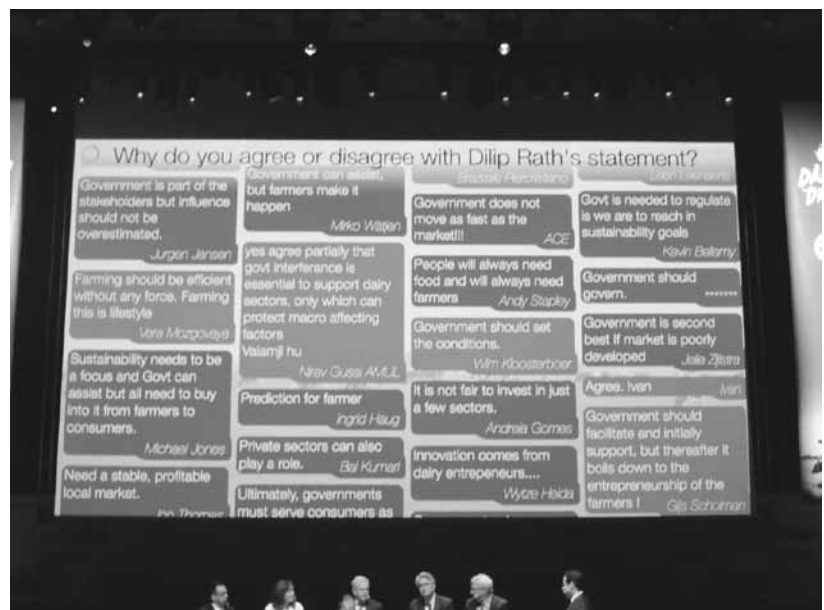
単位：名

参加国名	参加者数	備考
オランダ	299	開催国
ドイツ	91	
米国	67	
フランス	61	
カナダ	40	
日本	39	
イギリス	36	次回開催国
インド	29	
デンマーク	27	
中国	23	

を通して大型スクリーンに即時映し出されること等、これまでにない新たな試みがなされたことである。

(1) 全体講演会

講演会最初のプログラムである「酪農乳業の概観と展望」では、主要50カ国以上のデータを基に、2015年における世界全体の生乳生産と、乳製品の加工、消費、貿易及び価格の動向について報告がなされた。各特別講演会の冒頭で実施された4回





の全体講演会のテーマは、「野菜食はいかがですか－野菜中心の食事に潜む脅威と好機－」、「乳牛は適切な扱いを受けているか－家畜のウェルフェア問題は複雑－」、「酪農の環境負荷は深刻か－持続可能性の展望と挑戦－」、「乳は若者だけのものか－あらゆる世代に通じる乳に関する検討－」であった。

(2) 特別講演会

特別講演会は9つの専門分野から構成され、18日と19日の2日間で開催された。

そのうち経済特別講演会では第一に、「価格変動の下での経済的持続性」をテーマとして、酪農乳業界での価格変動の実態を概観した後、エネルギー業界、農産物業界など他業界での経験が報告された。第二に、「酪農新興国と酪農開発途上国への酪農投資」をテーマとして、東南アジアとアフリカ諸国への酪農投資の事例が紹介された。第三に、「均衡のとれた世界の貿易環境に必要な政策」をテーマとして、貿易政策の将来について、EU、米国、ブラジルの代表者から酪農乳業界の考え方が報告された。第四に、「グローバル化時代の規格基準の経済的重要性」をテーマとして、国際貿易における規格基準の関連性、民間企業からみた規格基準、国際基準における重要な視点などについて議論された。

また酪農経営特別講演会では、「酪農経営における乳牛栄養の役割」、「世界各国における酪農経営の社会的経済的重要性」、「酪農経営と家畜のアニマルウェルフェア・健康に関する研究」、「酪農経営と循環経済」についての報告が行われた。

さらに酪農開発特別講演会では、FAOの畜産担当者による「2050年における世界酪農の展望」と題する講演に続いて、「中国とアフリカの酪農開発の現状」、「乳業会社による酪農開発の事例」、「酪農開発計画が酪農場に及ぼす影響」、「行政からみた酪農開発の展望」などが議論された。

3. ロッテルダム酪農宣言の採択

サミットでのすべての講演が終了した10月19日の夕方、FAO事務総長補佐のRen Wang氏とIDF会長のJeremy Hill氏が「ロッテルダム酪農宣言」に署名した。同宣言は、

2014FAO/WHOローマ宣言に呼応して、「増え続ける世界の人口に持続可能な方法で食糧供給するために、酪農乳業界がどのように貢献できるのか」を問うもので、酪農乳業界の将来の行動を律するための指針ともなる。

同宣言は、国連2030アジェンダの持続可能な開発目標達成に向けて、酪農乳業界が果たすべき重要な貢献および付託について、FAOとIDFが共通の認識及び同意を得たものであり、宣言書では社会、経済、健康及び環境を考慮して、酪農乳業界の持続可能性を一丸となって促進することを述べている。

具体的には、FAOとIDFは、国連2030アジェンダの持続可能な開発における酪農乳業界の重要な貢献、食料保障のための酪農乳業界の役割などについて共通認識を持ち、次の6項目に同意した。

- ① 社会・経済・健康・環境面に配慮して、持続可能な酪農乳業を促進するための統合的な取り組みを行うこと
- ② 家族酪農、小規模酪農、田園生活者などのニーズに注意を払うこと
- ③ 酪農乳業界による持続可能な取組を促進するための方法と指針を策定、導入、普及すること
- ④ 持続可能な取組を支援する体制を整え、それを実行できる環境を提供すること
- ⑤ 酪農乳業界による取組の持続可能性を評価し、報告すること
- ⑥ 持続可能な取組に関する合意形成、進捗評価、継続的改善のための関係者による議論を活性化すること